

## サービ斯拉ーニングを振り返って

社会福祉学部社会福祉学科 2年 宮本 佳輝

活動先：社会福祉法人 むそう

クラス：村上 徹也 先生

今回のサービ斯拉ーニングでは、現在半田市を中心に活動を展開されている「社会福祉法人むそう」の地域貢献活動に参加し、イベント当日のブース運営や事前・事後会議に参加させて頂いたくなどを中心に活動を行った。

活動前の自身の見解として、活動当初、私自身が活動目的を曖昧にしていたこともあり、うまく活動を有意義にすることが難しいのではという不安や悩みがあった。しかし、7日間の活動を通し、私は「福祉とは、楽しいものなのだ」という事を改めて実感することができたと感じている。

私たちが活動を行わせて頂いた「社会福祉法人むそう」は、普段は地域の障害者に対して就労支援やヘルパーの派遣を行っており、更に地域のお祭りや行事に出向きブースを開くことで、地域に根付き、共に地域で暮らすという意識を持って活動されていた。そのブースの中で運営全般をサービ斯拉ーニング活動として行っていく中で沢山の地域住民の方と関わらせていただいた。

例を挙げるなら、ブースに遊びに来た子どもたちの事である。彼らは私が思っていた以上に遥かにエネルギーで、ブースの運営に精一杯であった私をさらに困らせてくれたと同時に、元気と活力を与えてくれた。「ねえお兄さん、このスーパーボール欲しいからタダでちょうだい??」「ダメに決まっているでしょうが～！お金払いなさいよ！」こんな他愛もない子どもたちとのやり取りが活動の中で山のようにあり、7日間のサービ斯拉ーニング活動を行った中で特に印象に残っているのが正直なところである。

また、一緒にブースの運営に携わってくれた地域住人の方々もそうだろう。今回のサービ斯拉ーニング活動の中では、スーパーボールすくいから、みたらし団子、ソフトドリンクの販売まで幅広いジャンルのブースを任された。そして、イベントの規模に合わせて主催地域からボランティアの方が来られ、メンバーの一員として運営を手伝って下さったのだが、彼らも大きな声かつ丁寧な接客のような熱意あふれる姿に私たちを含む学生は圧倒されるばかりであった。しかし、それを手本に学生も盛り上がりを見せ、ブースは大成功であった。

以上のようなことから、私が行ったサービ斯拉ーニング活動で感じ、学んだ事には、人との触れ合いが前提にあるという事と、人と人の触れ合いの大切さに改めて気付くことができたのだという思いがある。

次に、それぞれの活動の内容を振り返りながら、活動で得た考えや成長をまとめてゆく。

1日、2日目。板山盆踊り。2日間のイベントであったが、初日が大雨だったため中止と

なり本格的な活動は 2 日目だけとなってしまった。イベントではスーパーボールすくいのブースを担当し、地域住民の方と接客を行った。初めての活動日であったこともあり、ひたすら接客を行うだけで精一杯な状況が多かったのだが、サービスランニングの担当の職員さんの優しい声かけがあり、活動をやり通すことができた。

3 日、4 日目。向山盆踊り。半田市内の寺の敷地内で行われた小さなイベントであったが、それに対して来場者数は非常に多く、ブースを出していたのがむそうと地域自治体の 2 軒だけであったこともあり、非常に忙しかった。その際も私はスーパーボールすくいを担当しており、押し寄せる子どもたちには圧倒された。

5 日目。乙川区祭り。サービスランニング活動の中で一番大きなイベントであった。みたらし団子のブースを担当させて頂いたが、ブースの前には常に長蛇の列ができ、大変ではあったが、共にみたらし団子に担当となった地域住民の方の助けもあり、何とかこなすことができた。

6 日目。紺屋街道祭り。このイベントには、企画段階より関わらせて頂いた。地域の集会にお邪魔し、当日の予定や内容を共有することができた。又、様々なご縁から、半田市山車祭りのキャラクター「だし丸君」の着ぐるみを着させていだき、普段できない様な貴重な経験をさせていただくことができた。着ぐるみの後はむそうの開いた駄菓子屋に立ったが、途中から降り出した雨によりあまり客は訪れず、その後に予定されていた市民盆踊りも中止となってしまった。

7 日目。市民盆踊り。当日が雨だったため次の日に延期されたが、それでもすごい盛り上がりを見せた。この日はむそうの系列である蕎麦屋「狐房庵」を拠点としてブースを展開し障害当事者さんとドリンクの販売を行った。

以上の活動の全体を通し、障害当事者さんに関われたことが何よりも大きな経験となった。普段の講義では感じ、触れることのできない当事者と運営や接客を通す事で、関わり方やそれぞれの個性を直に感じる事ができた。しかし問題点も多くあった。一つに自主的な行動である。イベントに活動として参加する中でやはりどうしても指示を仰ぎたくなる事があるのだが、そこで積極的に意見を求める事ができなかったということがあった。恥ずかしい、聞きづらいという事もあるが、学生としてそういったような姿勢はもっていない。学生という立場だからこそ、求め、学ぼうとする姿勢は崩してはいけない。そういったことが活動を終えてから感じる事ができた。自身のそういった部分を改善することができれば、今後の様々な活動をより良いものにできるのではないだろうか。

今回の活動で様々な方と関わらせていただいたことに対し、心より感謝している。この経験を活かせるよう、学生生活を学びに満ちたものにしたい。